

## 第3回子ども読書活動推進計画策定検討委員会(書面開催) ご意見・ご質問に対する回答

計画番号	事業名	意見	回答
	第3章 文京区子ども読書活動の現状と課題	前回要望した点につきまして、アンケート結果に対する考察、課題の設定が行われていて良いと感じました。ありがとうございます。 アンケート結果のグラフが見にくいですが、これは実際の冊子になるときに改善されると考えて良いでしょうか？	冊子にする際、見やすく修正いたします。
	第4章 2 読書活動推進に向けた具体的な取組	ほぼ全ての項目において、目標が抽象的で5年後に達成できたのかできていないのかが検証できないと感じました。数値目標が全てよいとは思わないですが、せめてアンケート結果がどういう方向に進むことを目指しているか、については考えるべきです。	このたびの新型コロナウイルス感染症に伴う緊急事態宣言等により、イベントや事業が実施できない状況が続く中、今後は、その時々状況に応じて、事業内容を柔軟に見直していく必要があるものと考えております。そのため、事業の進行管理に当たっては、特定の数値目標を設定せず、毎年度の進捗状況調査において、全ての事業について検証を加え、実績や成果・課題等から、事業内容の改善につなげてまいります。 また、読書量等、子どもたちや保護者の意識の変化や行動変容等については、計画策定の時期に合わせたアンケートにおいて推移を把握してまいります。
	第4章 2 読書活動推進に向けた具体的な取組	小学校から中学校にかけて読書を継続する児童が増えることを期待していると思うのですが、そのための取り組みに具体性がないように感じました。私も小2の娘がいますが、例えば月に一回くらい図書館に行って、本を5-10冊くらい借りてきて読んで欲しいな、と期待しています。 例えば図書館ラリー？みたいな企画を設け、1年間毎月図書館に来るとなにかもらえる？みたいなイベントをやってみてもいいかな、と思いました。学年に合わせて景品？の内容を変えるなどするとよいか、と。	区立図書館では、子どもたちの読書の動機付けやきっかけづくりの機会として、学年に合わせた様々なイベント等に取り組んでおります。いただいたご意見も参考に、今後も、図書館利用や読書習慣の定着につながるよう取り組んでまいります。
2	第4章 2 読書活動推進に向けた具体的な取組  ブックスタートのフォローアップ事業の充実	本が好きな親は、放っておいても本に意識があると思います。だから、啓蒙が必要なのは、自分が本に親しんで来なかった親ですね。 そういう人に「子どもに絵本を読んであげるのではなく、一緒に楽しんでください。絵本をとおして子どもと楽しい時間や温かい気持ちを分かち合ってください」というメッセージは、むしろ心理的に負担だと思います。 それより、たとえば、「図書館にはたくさん本があって、いつでもタダで〇冊借りられます。子どもが電車を好きなら、電車の絵本ばかり集めて見せてあげるのもいいですよ。全部買っていたら大変だけど、図書館なら、カンタンにできます。自分で探せなかったら、図書館員に〈電車の絵本〉を探してもらうこともできますよ」「子どもは、同じ本をなんども読みたがるので、同じ本をなんども借りてもいいんですよ」ということを知らせるほうが、ずっと気楽にするし、先につながると思います。 たとえ自分(親)は楽しめなくても、子どもには本を与えたほうがいいんじゃないか、と思っている人を、図書館に引き寄せれば、子どものほうが自分で本の楽しみを見つける可能性が生まれます。	本事業では、絵本の読み聞かせが、親子にとってかけがえのないコミュニケーションツールとなるよう働きかけておりますが、ご指摘のとおり、子どもたちや保護者の読書への興味・関心は様々であることから、保護者が過度な負担を感じることをないよう努めてまいります。
1	ブックスタート事業の充実	保護者に対して、ブックスタートパックを対象者の95%以上に配布している現況に驚いています。本との出会いのきっかけ作りとして、今後も継続し、さらに多くの人に配布してほしいです。読み聞かせをしようとする意欲につながると思います。	今後も、更なる事業の充実を図ってまいります。

2	ブックスタートのフォローアップ事業の充実	ブックスタートパックを95%以上配布できているのに、このフォローアップ事業が33%と低迷している要因が何なのか知りたい気がします。1歳半くらいの子供たちに絵本の楽しさを教える一番いい時期なのに残念に思いました。	保護者に対するアンケートでは、フォローアップ事業に参加しなかった理由について、51.7%が「知らなかった」と回答しております。本事業の令和2年度の実績は約50%に上昇しましたが、今後も、より多くの方に図書館にご来館いただけるよう、更なる事業の周知や実施回数の拡大等に取り組んでまいります。
10	乳幼児とその保護者が図書館を利用しやすい環境作り	読書が好きな子供たち、主体的に読書をする子供たちを育てるためには、幼児期にたくさん読み聞かせをしてもらうこと、たくさん絵本とふれあうことだと思います。そのために、保護者が図書館を利用しやすいと思うことは大事なことだと思います。	保護者にとっても、図書館が身近で利用しやすい施設となるよう、魅力的な蔵書や、きめ細かな周知に努めてまいります。
14	電子書籍の活用	文字の拡大や音声読み上げ機能は、それを必要とする子供たちにとっては読書の楽しさを知る大事なものです。今後も数が増えるといいと思います。	読書バリアフリー法等を踏まえ、電子書籍をはじめとしたアクセシブルな図書の拡充を図ってまいります。
15	入院中の子どもへのサービスの充実	どんな状況におかれている子供でも、読書環境を整備しようという気持ちが多様性を認めていると思います。入院中の子供たちにこそ心の栄養が必要かもしれないと思うと読書の機会をたくさん与えてあげたいです。	大学病院や都立病院等、比較的大きな病院では、患者や家族が利用できる図書室があり、感染症の状況を見極めた上で、まずは、病院に本計画を周知するとともに、病院側の個別のニーズを把握しながら、今後の連携の方策について検討してまいります。
19	学校における読書活動の推進	低学年のうちに読書習慣を身につけさせることが、読書離れを阻止することにつながると思います。図書館支援員、図書ボランティアをフルに活用し、読み聞かせ、素話の楽しさにひたらせたいです。図書委員会児童にも「読書郵便」でおすすめの本を紹介し合ったり、「貸出ランキングベスト10」を発表したり、工夫した活動に取り組ませ、読書意欲を向上させていきます。	現在、各学校では、教職員と学校図書館支援員、ボランティアが協働し、児童・生徒の読書意欲を向上させるための様々な取り組みを行っており、学校図書館の貸出数も増加しております。今後も、事業の充実を図り、学校図書館の活性化と児童・生徒の読書環境の整備に努めてまいります。
24 25	保護者等への啓発 子どもへの啓発	読書活動が「人生をより深く生きるために必要であること」「人生を豊かにすること」をすべての人に理解してもらうため、啓発活動は大切です。学校も図書館もそれぞれの立場で読書の大切さを発信していきたいと思っています。	より多くの方に本計画の趣旨をご理解いただき、学校・図書館等の子どもたちに関わる施設や各家庭において、読書環境の整備が図られるよう、啓発に努めてまいります。

	アンケートより	<p>本の読み聞かせをしている保護者 93.9%          家庭にある絵本 5冊以上 42%</p> <p>ほとんどの家庭が「読み聞かせは子供の成長に役立つ」と答えていることに嬉しさ          と驚きを感じました。その反面、それなのに子供の読書離れが増えるのは、どの時          点で、なぜなのかと不思議にも思いました。大きくなって「読みたい本がない。」「時          間がない。」という理由は本当の理由でしょうか。本来の読書の意義を理解してい          ない、本当の読書の楽しさを知らないからなのかなとも思います。</p>	<p>子どもたちは、自分で本を読めるような年齢になると、文字を追うことに集中するあまり、お話          自体を楽しむことができない場合があることに加え、絵本に比べて、幼年文学作品が質量と          もに少ない状況もあります。</p> <p>また、学齢が上がるにつれて、日常の忙しさが増し、十分な読書の機会を確保することが難          しくなる状況の中、読書を「楽しくない」と感じ始めていることも考えられます。さらに、読みた          い本が無いというアンケートでの回答は、本との出会いの機会が無いことを裏付けていると          捉えることもできます。</p> <p>読み聞かせも含め、読書の楽しさをより多く体験した子どもは、一時期本から離れても、再び          戻ってくるとも言われていることから、幼い頃からの成長段階に応じた働きかけが重要である          と認識しており、今後も、子どもたちと本との出会いのきっかけづくりのため、関係機関等と連          携しながら、子どもたちの読書活動を推進してまいります。</p>
	アンケートより	<p>物語や小説が好きという割合が、5年間で半分になったという結果にショックを受け          ました。この現状を分析し、解決するにはどうしたらいいのか考えるべきではないで          しょうか。日頃から、「読書の質の向上」もどうしたらいいのか考えます。貸出の冊          数だけにとらわれず、質の向上を目指したいです。</p>	<p>アンケート結果については、好きな本のジャンルの選択肢が前回調査よりも増え、回答が分          散したことが、文学作品の割合を下げた主な要因と捉えております。</p> <p>子どもたちが物語や小説をじっくり読み、そこから多くの感動を得ることは重要であると同          時に、興味や関心のあることに関し、本で知識を得たり、探究心を深めたりすることも読書の意          義であり、ジャンルを問わず本に親しむことは、読書習慣の定着につながるものと考えており          ます。今後も、ブックリストの配付やテーマごとの展示、パスファインダーの作成、読書相談な          どを通じて、子どもたちの幅広い読書活動を支援してまいります。</p>